

AIM2018 事業領域の11ドメイン



今回の主なトピックス

村田製作所と資本業務提携

村田製作所と指月電機製作所、両社の技術を融合させ共同開発した新素材は、電気自動車をはじめこれから大きな需要が期待されます。

タイ指月10周年に向けて、さらなる躍進へ

タイ指月は、2007年4月に操業を開始しました。来年で10周年を迎えます。工場はバンコクのバンチャン工業団地にあり、現在、約120名の従業員が働いています。

→ 詳しくはP7-P8をご覧ください

強みを伸ばすことで、現状を打破し、次なる成長への一步を。

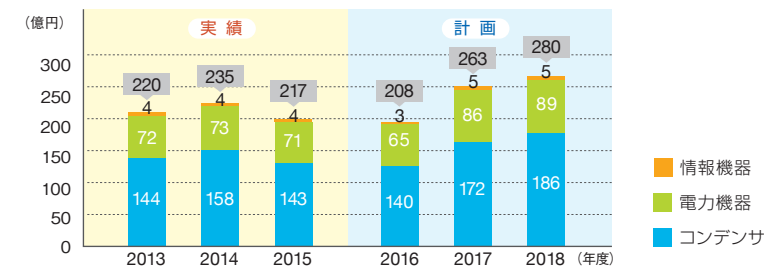
日本国内では、個人消費の回復が見られる一方で、企業の設備投資は依然として弱含みの基調が続いています。海外に目を向けると、世界的な資源価格の下落により景気は減速し、不透明感が一段と強まっています。このような状況のなか、シヅキでは受注と売上の確保、原価低減活動に努めてまいりましたが、電力機器システムの高採算商品を中心に売上が前年を下回り、第89期第2四半期の連結売上高は、前年同期比で5.6%の減少となりました。

私たちが、電力機器システムのセグメントで扱っている「瞬時電圧低下補償装置」や「力率改善装置」は、コンデンサのことを熟知されたお客様に対して製造・販売を行う場合とは趣が異なり、最終商品を直接ユーザー様にご提案するかたちをとります。このため、お客様に商品の魅力とソリューションを効果的にPRする必要があります。このため、お客様に商品の魅力とソリューションを効果的にPRする必要があります。このため、お客様に商品の魅力とソリューションを効果的にPRする必要があります。このため、お客様に商品の魅力とソリューションを効果的にPRする必要があります。

一方で、現状を打破するためには、我々がもともと持っている強みをさらに伸ばしていく努力が重要であると考えております。その取り組みの象徴とも言えるのが、株式会社村田製作所との資本業務提携（詳しくはP3-4、P8をご覧ください）。信頼のおけるパートナーとともに新たな一步を踏み出した今、数年先を見据えて、大きな可能性を育んでいく所存です。

代表執行役社長 伊藤 薫

中長期経営計画 AIM2018 売上高実績と計画



次世代商品に向けた、新素材を。 村田製作所との連携を強め、 新たな事業を本格始動。



村田製作所

セラミックコンデンサ技術

&

素材を生み出す技術

指月電機製作所

フィルムコンデンサ技術

&

素材を加工する技術

お互いの強みを、活かす道を探して。 村田製作所との協業の歩み。

2016年9月、私たち指月電機製作所は、村田製作所と資本業務提携を結びました。両社のパートナーシップは一朝一夕に生まれたものではなく、長い時間をかけて育まれてきたものです。特に2008年からは、新しい素材の開発にともに取り組む協業関係にありました。

シヅキはフィルムコンデンサ技術において、国内トップクラスの歴史と実績を誇り、70年以上にわたりその技術を磨いてきました。ですから私たちは、フィルムであればかなり幅広い素材に対応し、高品質な加工を施せる技術とノウハウを持っています。しかし、素材メーカーではないため、フィルムそのものを自社でつくることはできません。フィルムコンデンサをつくる技術をどれほど突き詰めても、新しい素材が登場しなければ、その真価を十分に発揮することが

難しい。そんな課題を感じていた矢先に持ち上がったのが、村田製作所との新素材の共同開発の話だったのです。

セラミックコンデンサ技術において圧倒的な強みを持つ村田製作所は、原材料を自社で選り分け、化学的な知見にもとづいてセラミックという素材そのものを一からつくりあげて、グローバル市場のなかで大きな競争力を発揮しています。

両社がお互いの強みを活かし、村田製作所が持つ「原材料から素材を生み出す技術」と、シヅキが持つ「素材を高精度に加工する技術」をかけ合わせることで相乗効果を生み出していく。お互いの目的と想いがうまく適合して、生まれた協業関係でした。

本格的な事業化へ向け、 2016年10月、合併会社をスタート。

本格的な事業化に向け、工場や事業所を準備していくうえで、両社の共同出資による合併会社の設立を決定。村田製作所と資本業務提携契約を締結した翌月にあたる2016年10月、株式会社村田指月FCソリューションズが新たなスタートを切りました。

販売・マーケティングにおいても、 お互いの強みを活かした拡販を。

村田製作所は、ヨーロッパの自動車産業などをはじめ、海外マーケットにおいて、ゆたかな販路を持っています。一方で、シヅキには、フィルムコンデンサの分野で長年信頼関係を培ってきたお客様がいます。技術面だけでなく販促活動の面でもお互いの強みを活かし、新たな素材を、新たなビジネスへと発展させていく所存です。

株主の皆様におかれましては、私たちの取り組みにご理解をいただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

